

令和元年度 学校評価取りまとめ表 千葉県立幕張総合高等学校

	重点目標	具体的方策 (具体的な取組、手 立て)	評価項目・指標 (評価方法・評価 基準)	自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏ま えた課題・改善の方向)	学校関係者評価の 結果	学校評価のまとめ(課題と 次年度に向けた改善方策)
学校経営	<p>1 全職員協働の下、信頼される学校づくりを推進し、本校の教育活動を積極的に情報発信する。</p> <p>2 安心・安全な学校生活を指導し、学校事故防止を実践する。</p> <p>3 働き方改革の推進に向けて、業務の精選及び職員の意識の向上を図ると共にコンプライアンス意識を徹底させる。</p>	<p>① 本校の教育活動の積極的な発信のために、<b>ホームページの掲載内容を随時更新し最新の情報を提供する。</b></p> <p>② 日常の安全教育及び計画的な安全点検の実施により、確かな危機管理対応能力を育成するとともに、安全・安心の教育環境を構築する。</p> <p>③ <b>勤務時間に関する意識改革を推進し、業務の適正化を図る。</b>不祥事根絶意識の徹底のために職員研修を充実させる。</p>	<p>① <b>ホームページの掲載内容の整理及び更新回数(少なくとも月3回以上の更新)</b></p> <p>② 防災に関するマニュアルの再点検及び訓練実施状況の見直し。安全点検集計表及び対応結果の周知</p> <p>③ 職員研修会の実施状況及び研修内容及び出勤記録及び校長面談実施記録、学校評価及び学校関係者評価記録</p>	<p>① ホームページの更新は年間142回であった。昨年度比では約3割増えた。特に、「校長通信」で、本校の日常の教育活動や行事、部活動等での生徒の活躍について紹介した。更新回数は49回である。その他、本校の運動部活動が特色や実態に応じて取り組んだ、生涯スポーツとの連携や地域貢献などを紹介する「運動部活動プラスワン活動」についての更新は16回。また、ホームページ上の古い記載事項の整理を行った。</p> <p>開かれた学校づくり委員会が運営したミニ集会では、今年度からスタートした「総合学科」について現在の取組を説明し、これからの取組や地域連携の可能性等について、グループ別協議を行い、課題の整理と今後の展望について理解を深めた。</p> <p>中学生やその保護者を対象にした学校説明会を総合学科で2日、中学校職員を対象にした説明会を看護科で2日実施した。合計で凡そ6100人の参加者であった。別に看護科は体験入学を2日間実施し、参加者は589人であった。</p> <p>保護者対象の学校評価アンケートは、回答率が昨年度を若干上回る77.7%であった。</p> <p>重点目標の一つである組織的な取組「協働」についての職員の肯定的評価は66%であった。相互理解に加えて、行動連携の質的向上が課題である。</p> <p>② 今年度秋の台風及び大雨の影響に鑑み、大雨等に対するマニュアルの整備を現在進めている。毎月の体育施設点検と全職員による学期毎の施設点検により施設設備の修繕等をその都度段階的に進めることができた。</p> <p>職員の教育環境の安全性に関する肯定的評価は76.8%であった。</p> <p>③ 教職員のためのモラールアップ研修会(職員間のコミュニケーション)を9月に開催した。肯定的評価は95%であった。</p> <p>特別支援教育研修会等、年間10回以上開催した。出勤記録による労働時間の適正化を日々の声かけ等で指導した。</p> <p>出勤時間記録による月80時間以上の職員の割合は6月時点で18%、11月時点で13%となり、改善の傾向は見られる。また、学校評価アンケートの教職員の自己評価では、意識の変化を64%の職員が感じている。一方、生徒と関わる時間の確保については44%の肯定的評価に留まっており、働き方改革は次年度も大きな課題である。</p>	<p>① 今年度ホームページに掲載した「校長通信」を継続していく。加えて、「部活動プラスワン活動状況」及び「部活動の活躍状況」の更新を一層充実させていく。</p> <p>ミニ集会は、来年度より早めに地域に開催について周知し、参加の呼びかけを行う。本年度、地域の方に幅広く参加していただいたが、それを上回る参加者の確保に努める。200名を超える職員数は、人材の豊かさという点で、本校の特長の一つである。一方、その職員の有機的な「協働」体制の確立は常に本校の課題であり、不断の取組が必要である。これに対しては、既存の校内組織を更に計画的・効果的に機能させることで職員の肯定的評価を10%向上させることを目標値として設定し取り組む。</p> <p>② 防災に関するマニュアルの見直しは毎年行い、学校安全点検と老朽化した施設設備の修繕を引き続き進める。</p> <p>ホームページ、校内メール、「Classi」等の複数の連絡手段による情報伝達手段の更なる充実を図る。</p> <p>③ 不祥事防止研修会やストレスマネジメント研修会を年間計画に位置付けて実施する。次年度導入予定のICカードによる出勤時間管理システムにより、働き方改革について意識の向上を図るとともに、業務改善を進め、生徒に関わる時間や教材研究、職員の資質向上につながる時間確保を推進する。</p>	<p>① 安全・安心の学校づくりの点から、本年度の台風、豪雨に対する対応について問いがあり、説明を行った。また、今後の防災対策の充実についても要望をいただいた。災害時の情報発信にツイッターの利用は有効との意見をいただいた。</p> <p>災害時の保護者への迅速な情報提供について要望をいただいた。</p> <p>② 働き方改革への対応と教育の質の確保の両立については、難しいところだが引き続き粘り強く取り組んで欲しいとの言葉をいただいた。</p>	<p>① 今年度ホームページに掲載した「校長通信」を継続していく。加えて、「部活動プラスワン活動状況」及び「部活動活躍状況」の更新を一層充実させていく。</p> <p>ミニ集会は、来年度より早めに地域に開催について周知し、参加の呼びかけを行う。本年度、地域の方に幅広く参加していただいたが、それを上回る参加者の確保に努める。200名を超える職員数は、人材の豊かさという点で、本校の特長の一つである。一方、その職員の有機的な「協働」体制の確立は常に本校の課題であり、不断の取組が必要である。これに対しては、既存の校内組織を更に計画的・効果的に機能させることで職員の肯定的評価を10%向上させることを目標値として設定し取り組む。</p> <p>② 防災に関するマニュアルの見直しは毎年行い、学校安全点検と老朽化した施設設備の修繕を引き続き進める。</p> <p>ホームページ、校内メール、「Classi」等の複数の連絡手段による情報伝達手段の更なる充実を図る。</p> <p>③ 不祥事防止研修会やストレスマネジメント研修会を年間計画に位置付けて実施する。次年度導入予定のICカードによる出勤時間管理システムにより、働き方改革について意識の向上を図るとともに、業務改善を進め、生徒に関わる時間や教材研究、職員の資質向上につながる時間確保を推進する</p>

	重点目標	具体的方策 (具体的な取組、手立て)	評価項目・指標 (評価方法・評価基準)	自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)	学校関係者 評価の結果	学校評価のまとめ(課題と 次年度に向けた改善方策)
学習指導	<p>1 生徒が主体的に取り組む授業づくり実現のため授業力向上に向けた指導方法や評価方法の研修を継続的・計画的に展開する。</p> <p>2 大学入試改革に向け、希望進路の実現のための自学自習の態度を確立させる。</p>	<p>① 管理職による授業観察や生徒の授業アンケートを活用する。若手教員研修チームを核として、全職員で授業研究や授業公開を積極的に推進し授業力向上を図る。</p> <p>② 放課後や長期休業中の補習を充実させる。eポートフォリオの活用により生徒の学習意欲を醸成し、大学入試改革に対応する。「学びの基礎診断テスト」スタディ・サポートを1・2年次で年2回実施し、学習成果と課題を把握し、指導・評価の改善を実践する。</p>	<p>① 管理職による授業観察の実施及び指導と生徒による授業アンケート結果(肯定的評価が80%以上か。)授業研究や授業公開の実施回数と開催状況</p> <p>② eポートフォリオの活用状況及びアンケート結果「学びの基礎診断テスト」スタディ・サポートの結果分析及び生徒へのフィードバック状況</p>	<p>① 授業改善による学力向上をテーマとして全職員対象の職員研修会を11月に実施した。教員相互の授業参観を学校として組織的に実施した。また、若手研修チームを中心に校外の学習指導研究会に派遣し、校内で共有して、授業研究につなげる等、職員の主体的な授業改善のための取組が見られるようになってきた。「授業理解」に係る学校評価アンケートにおいて、肯定的評価は職員がほぼ100%に対し、生徒・保護者は70%余りに留まっており、改善が大きな課題である。わかりやすい授業づくり、授業力向上に来年度は更に注力していく。「学力の向上の実感」も「授業理解」と同様に、職員と生徒・保護者間で15%の差が生じている。また、「アクティブラーニング型の授業」も積極的肯定が20%前後に留まり、授業改善が道半ばであることを示している。</p> <p>② 生徒の家庭学習に関する肯定的自己評価は昨年度に比べて、5%改善しておよそ50%であるが依然低い。また、年次ごとの差が顕著に見られ、特に1年次の肯定的評価は生徒・保護者ともにおよそ38%である。喫緊の課題として対応する。</p> <p>③ 今年度実施した授業公開には保護者・地域住民等、計286名が参観した。eポートフォリオへの活用を視野に導入したベネッセの提供するClassiは今年度1、2年次で、振り返り学習やデータ入力等の指導等、大学入試への指導で活用した。また、Classiに関する職員研修会を開催し全職員のスキルアップを図った。</p>	<p>① 授業力向上を重点目標として掲げ、職員研修会や今年度行った教員の相互授業観察を更に充実させて、教科単位の授業研究会を実施する。「授業理解」及び「学力向上の実感」に係る生徒の肯定的評価を85%に目標設定して改善を図る。「アクティブラーニング型の授業」導入の肯定的評価を現在の75%前後から、85%に、積極的な肯定を現在の20%から35%に目標設定して改善に努める。「生徒による授業評価」をこれまでの年1回の実施から複数回の実施を検討する。家庭学習に関する年次ごとの課題や原因を分析し、全職員の共通理解のもと生徒の意識向上と家庭学習の充実を図る。</p> <p>② 進学重視型総合学科における新たな学習指導要領に対応した教育課程の編成準備を進める。Classiの活用をより深化させるために、校内の体制をより充実させ、将来のタブレット導入等を視野に入れながら「探究」型の学びを実践できる環境整備の検討を進める。</p>	<p>① 授業改善の取組を今後進めたい。生徒の部活動と学業の両立について、学校として支援するシステムづくりを進めて欲しい。部活動を行う生徒が学業互いに刺激しあう環境が生まれることを望む。</p> <p>③ アクティブラーニング型の授業実践についての保護者への情報発信が少ない。</p> <p>④ 国際教育の面で、高大接続(神田外語大学)の更なる充実を図ってはいかがか。</p>	<p>① 職員全体の研修に加えて、今年は若手教員研修チームによる授業改善への取組が始まった。この流れを全職員に波及させるべく、次年度も取組を支援していく。また教科毎の授業改善に向けた取組を実施していく。</p> <p>② 各部活動単位で、試験期間中の補習などの取組を行っている。一方、学校としての組織的な取組は、働き方改革の方向性と相まって、本校の大きな課題となっている。生徒への学習意欲の啓発を推進するとともに、効率的な練習方法の導入等、職員の意識改革を進める。</p> <p>③ 校内の職員相互の授業観察や授業研究を通じて、「主体的、対話的で深い学び」を実現する授業づくりや授業力向上に引き続き力をを入れて取り組む。更に、保護者への情報発信を高めていく。</p> <p>④ 現在行っている留学生との交流事業の他、国内、海外での更なる学びについて、校内で検討中である。年間計画に位置付けた国際教育の充実について、総合的に検討していく</p>

	重点目標	具体的方策 (具体的な取組、 手立て)	評価項目・指標 (評価方法・評 価基準)	自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏ま えた課題・改善の方向)	学校関係者評価 の結果	学校評価のまとめ(課題 と次年度に向けた改善方 策)
生徒指導	1 基本的な生活習慣の徹底と豊かな心の育成を図る。 2 いじめ対策に向けた教育相談や未然防止の体制を確立する。	① 定期的な服装指導や日常的な挨拶の励行を推進するとともに、道徳教育の充実を図る。 ② 担任による面談、スクールカウンセラーの活用、アンケートの計画的実施により教育相談体制の充実を推進する。併せて、特別支援教育についての研修を行い、教職員の意識・技能の向上を図る。	① アンケート結果、年間計画に基づいた教育内や研修会、生徒面談、個別生徒の理解のための工夫・取組の実施状況 ② 学校いじめ防止基本方針に基づく取組の実施状況。	① 「幕総生のマナー、校則の遵守、あいさつの実践」に対する肯定的評価は昨年度の78%から82.3%と4%余り改善した。道徳教育は、年間計画に基づいて着実に推進しており、「命の授業」を看護科3年生が総合学科1年生に講師として実践するなど本校独自の企画を続けている。 ② hyper-QU研修会等、教育相談や特別支援関係の職員研修会を2回、生徒向け研修会を2回実施した。 また生徒向けに、コミュニケーションウィーク1回、学校生活アンケートを年2回、いじめアンケートを3回、セクハラ体罰アンケートを年1回実施した。「いじめ防止」や「教育相談体制」についての評価は全体としては、肯定的評価が90%前後である。生徒の1.8%が積極的な否定を選択しており、いじめの存在を前提として引き続き丁寧な関わりの中で早期発見・早期対応を行っていく。昨年度との比較でも全体的により良い評価となっている。 高等学校における通級指導の先駆けとしての実践を着実に積み重ね、今年度は3名の生徒に「自立活動」計3単位の修得を認定した。また若手教員研修チームは自主的研修として、本校の実践を担当教員から学ぶ機会を設け、理解を深めた。	① 生徒指導に関する情報を職員間で共有し、全校での指導を徹底する。道徳教育や安全教室については、本年度の取組を継続する。 ② 今年度につき、教員対象の校内研修会、各種アンケートや個人面談等による早期の問題把握・早期対応、定期的な情報共有等の教育相談活動を発展させ、生徒のニーズに合った内容となるよう適切に運営する。 通級指導の実践を着実に積み、個別の教育的支援を教員間で情報共有して組織的に対応する。 来年度は「教職員のための児童虐待対応の手引き」を職員に周知し、「虐待」対応能力の向上を図る。	① スマートフォンの利用はどのようなものか。スマホはそれほど見えない印象を持っている。 ② 「通級」指導は、どのように行っているのか。一時的に把握しているか。	① スマートフォンを授業で活用する場合を除き、授業中の使用は禁止されている。「歩きスマホ」については、時折、苦情をいただくこともあり、引き続き適切な使用指導していく。 ② 通級指導は合理的配慮申請や日常の教育相談の実践を通じて、希望者を把握し、当該生徒の時間割に合わせて、空き時間に充てている。きめ細かい計画的な指導により単位修得の認定も行い、軌道に乗っている。引き続き、丁寧な実践を積み重ねていく。

	重点目標	具体的方策 (具体的な取組、 手立て)	評価項目・指 標 (評価方法・ 評価基準)	自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏ま えた課題・改善の方向)	学校関係者評価の 結果	学校評価のまとめ(課題と次年度に向けた改善方策)
キャリア教育	<p>1 生徒のキャリアアップに向け、自己理解・啓発を深める指導を行う。</p> <p>2 総合学科の特色を生かし、体験を重視したキャリア教育を実践する。</p>	<p>① <b>各種説明会等</b>を通じて、高いレベルの目標設定とチャレンジ精神の涵養を図る。</p> <p>② <b>校外資源との連携を推進</b>し「産業社会と人間」を通じた効果的なキャリア教育を実践する。<b>生徒個々の興味・関心・適性等に応じた履修指導を行うとともに、保護者への情報提供を充実させる。</b></p>	<p>① <b>ガイダンス機能を充実するための工夫・取組の状況</b></p> <p>② <b>進路説明会の実施状況。</b></p> <p>③ <b>大学体験講義の運営や参加者状況及び履修に関する担当回数と面談回数と保護者の説明会の状況やアンケート結果</b></p>	<p>① <b>進路説明会、キャリアセミナー等は、今年度は13回実施した。</b> 「本校の進路指導」に関する評価は生徒・保護者・職員ともに肯定的評価が85%前後であり、特に生徒の評価が最も高い点は注目できる。昨年度と比べても、生徒が5.5%、保護者が11.2%と改善している。更に充実を図る。 「進路情報の適切な提供」に係る評価は肯定的評価が職員と保護者の間で、11.5%の開きがある。保護者への情報提供により一層工夫改善をする必要がある。理由として大学入試共通テストに関する混乱が背景にあると考えられる。 進学補講は前期・夏季・後期・通年合わせて67講座、延べ743名の生徒が受講した。</p> <p>② 学外学修については、高大連携説明会を実施し、千葉大学の講座に4名、神田外語大学の講座に2名、多摩美術大学の集中講座に12名が参加した。 その他、千葉大学の授業聴講に参加した生徒も25名を数えた。</p> <p>③ 履修に関する説明会は、保護者向けも含め5回実施するとともに、個別指導を進めた。 履修指導に係る評価は全体としては肯定的評価が80%を超えているのは評価できる。担任を中心とした学年主体の支援と教務部・学修指導部の担当職員の尽力によるものである。 「幕総は、生徒の進路希望にあった教科・科目が用意されている」に対する肯定的評価は変わらず90%前後と高くなっている。</p>	<p>① <b>進路説明会や、キャリアセミナー等は継続して適切に実施する。</b> 進学重視型総合学科として、進路指導の在り方を学校として再検討するとともに、指導方法の研修を全職員に実施する。 学びの振り返りができるポートフォリオ「キャリア・パスポート」の全国一斉導入に伴い、本校に導入済みの「Classi」を有効活用して、スムーズに利用できる体制を構築する。</p> <p>② 千葉大学、神田外語大学、多摩美術大学との連携をきっかけとして、生徒への魅力ある講座をさらに提供していく。</p> <p>③ 引き続き履修指導に関する説明会や個別指導を生徒のニーズに合わせて計画的に推進する。</p>	<p>① <b>総合学科が始まり、「産業社会と人間」を始めとする幕張総合高校のキャリア教育は非常に充実している。これまでの日本の教育に欠けていた点を実践している」と評価できる。</b></p>	<p>① <b>元 JAXA 職員の外部講師を招いての講演会や実社会で活躍している本校卒業生のインタビューを教材にした「キャリア」教育の実践を踏まえ、総合学科2年目には「総合的な探求の時間」の充実を図っていく。</b></p>

	重点目標	具体的方策 (具体的な取組、 手立て)	評価項目・指標 (評価方法・評価 基準)	自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏ま えた課題・改善の方向)	学校関係者評価の 結果	学校評価のまとめ(課題 と次年度に向けた改善 方策)
特別活動	体力や情操を育み、よりよい人間関係の構築のため、ガイドラインに沿った部活動教育を推進する。	① 学業、学校行事等と均衡がとれた部活動の実現。 ② 地域の行事や団体との交流を推進するとともに、学校行事の活性化を一層支援する。	① 部活動の活動計画及び活動報告。 ② 地域との連携活動状況 鼎祭の開催状況、及びアンケート結果	① 今年度の部活動加入率は88%で例年どおり高い。全国大会・関東大会に出場した部活動も20。そのうちシンフォニック・オーケストラ部は全国大会 13年連続の1位を獲得した。本校として新たに「部活動ガイドライン」を設けた初年度としての「部活動」に関する評価は生徒や保護者よりも、職員の方が肯定的評価が低い結果が出た。昨年度との比較では、今年度「ガイドラインに則り」の語句が入ったことにより、特に積極的な肯定が、生徒・保護者で半減、職員では65%減であり、ガイドラインの運用が道半ばであることが浮き彫りになっている。 ② 鼎祭文化の部には、約 9,000名弱の入場者があった。「学校行事」に対する全体としての肯定的評価は90%前後と高い。	① 働き方改革を推進し、本校の実態に即した部活動ガイドラインに則り、職員の共通理解のもと学習指導とのバランスを取りながら、適切な部活動指導等の企画運営を行い、文武一道を実現する。計画的に休養日を設定し、科学的トレーニングを更に積極的に導入することにより、他の県立高校のモデルとなる部活動実践を達成する。 ② 鼎祭文化の部、体育の部とも活気がある行事となっている。更に、水準を上げるには、何に力点を置くべきか、検討する。	① 部活動の変革については、大きな船が舵を切り始めたところであり、時間がかかるだろう。職員の疲労を軽減していくことが大事である。 ② ダンス部などを始めとする部活動の地域への貢献は頑張っていると感じている。	① 部活動ガイドラインの趣旨を職員にしっかりと定着させるべく意識改革を進める。同時に、効率的・効果的な部活動指導方法について研修を行っていく。 ② 「部活動プラスワン」の趣旨に合致する幕張総合高校の教育資源の地域への提供は、引き続き可能な限り、積極的にやっていく。
特色ある教育活動	看護科・専攻科の教育 1 看護に関する基礎的・基本的な知識と技術や健康の保持増進に寄与する能力を育成する。 2 看護師国家試験対応を充実させる。	① 面談等により、生徒一人一人の学習状況の把握に努め、保護者との連携を密にして指導にあたる。 ② 国家試験対策の集中補講・国家試験模擬試験等を実施し、看護師国家試験の合格100%を目指す。	① 実習先の病院等からの評価結果 ② 看護師国家試験の結果と専攻科修了生の進路状況	① 若干のインシデント(レベル0)は発生したが、大事には至っていない。実習先の病院や施設との密な連携を図ることで、先方からの評価は概ね良好である。 ② 昨年度の国家資格合格率は100%であった。今年度の進路先は2名が助産師学校へ進学を希望している。その他の生徒36名は病院への入職が内定している	① 病院側、職員、実習生との報告・連絡・相談の徹底及び迅速な対応を心掛ける。 ② 目的意識をもって進路実現に向かわせる。計画的な模試の実施及び結果を分析後の丁寧な指導。一人一人の適性を見極めての進路指導を行う。	① 看護科・専攻科の指導の充実を引き続きお願いしたい。 ② 近年の看護師養成大学の学科新設等の影響により、臨地実習先の確保や講師を依頼できる医師の確保が難しくなっている。質の高い教育を維持していくために最大限努力する。	① 看護師国家試験の合格100%を実現することを目標に丁寧な指導を行っていく。 ② 近年の看護師養成大学の学科新設等の影響により、臨地実習先の確保や講師を依頼できる医師の確保が難しくなっている。質の高い教育を維持していくために最大限努力する。